

3. 単元構想について

○身に付けた力

○言語活動

・ 評 価



まなびー奈良

CONTENTS

[トップページ TOP PAGE](#)

[活用方法 INFORMATION](#)

[各種データ DATA](#)

[研究会等活動報告 REPORT](#)



全国学力・学習
状況調査情報



学力向上の
ための取組



各種ダウン

まなびー奈良では、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を育むため一つの方法として各種問題や授業モデルの動画を配信し、学力向上の支援をしています。

! 問題編



●全国学力・学習状況調査の調査結果から明らかになった課題に関する問題がダウンロードできます。ダウンロードしたい教科をクリックしてください。

→小学校国語

→小学校算数

→小学校理科

→中学校国語

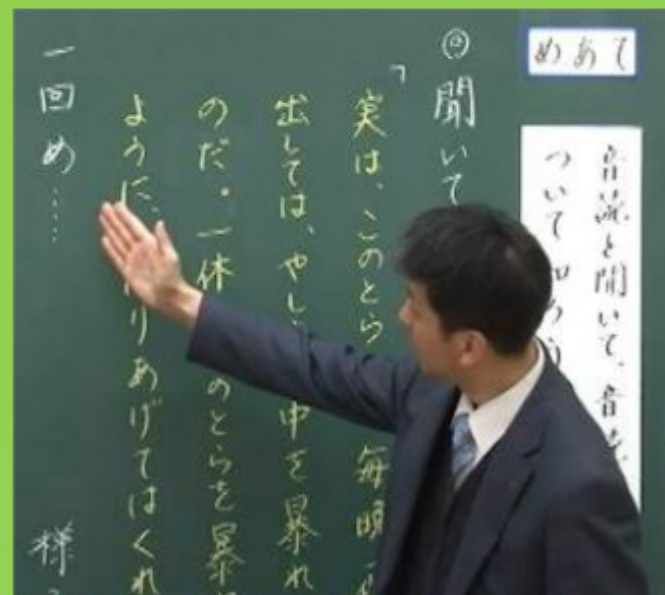
→中学校数学

→中学校理科

授業モデル動画

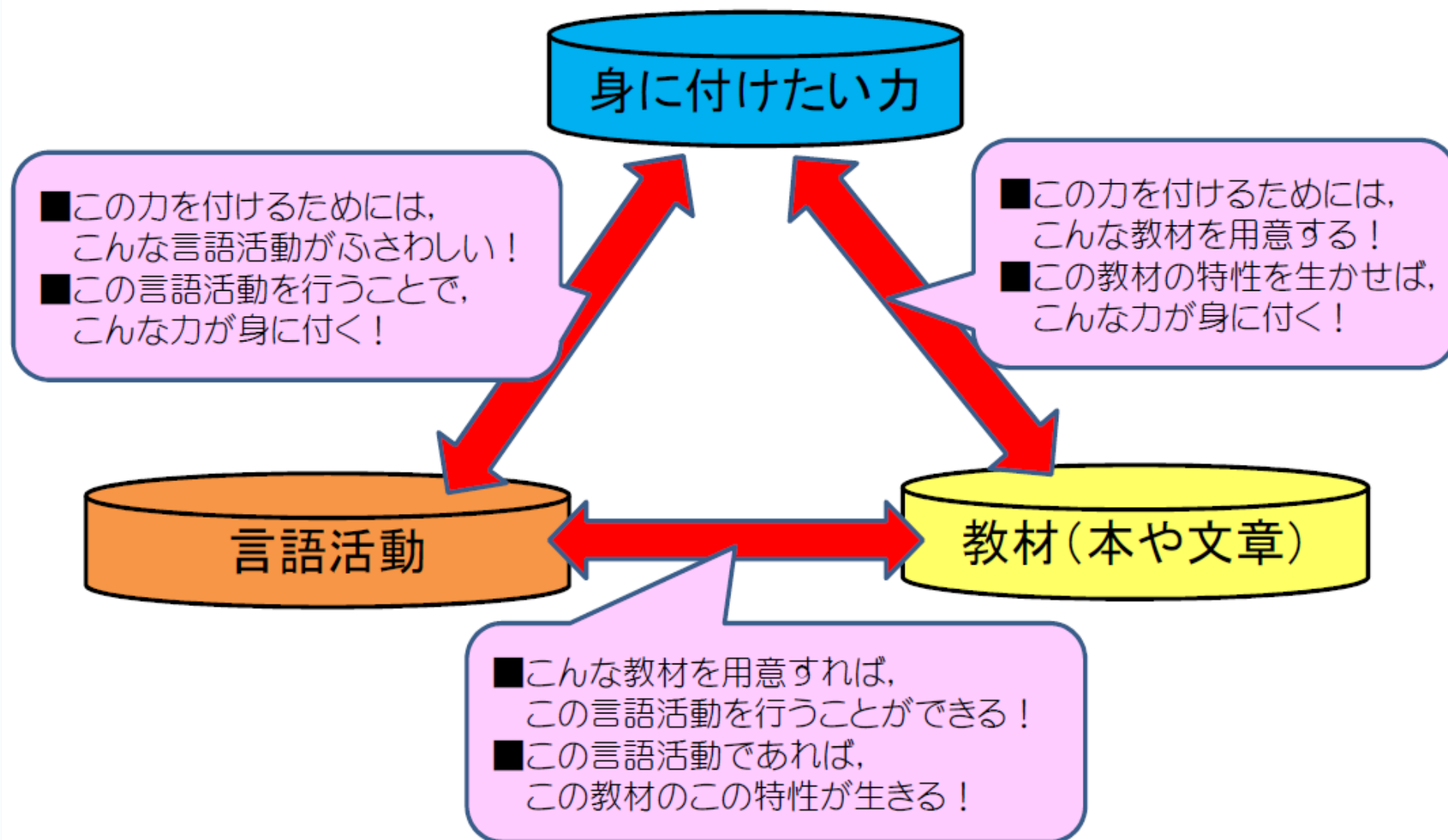
先生方がご自身の授業を振り返り、より創意工夫ある授業を展開するための一助となるよう作成したものです。

授業づくり検討編



「昔話の大好きな場面を音読して紹介しよう」(小学校4年生)

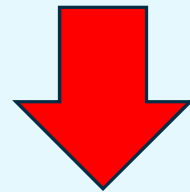
「読むこと」の単元を構想する上で不可欠な視点 ～三者の有機的な関連付け～



身に付けたい力

→①目標(めあて)を明確にもつ

→②実態をつかむ



適切な目標(めあて)の設定

学習指導要領の (1) 指導事項

(A) 話すこと・聞くこと

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
目標	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、原簿を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
	(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。		
や取り扱	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事項を思い出すこと。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事項について調べ、要点をメモすること。	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通な言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事柄などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合うこと	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提議などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
言語活動例	ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それら聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合ったり考えを一つにまとめたりすること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡をし合ったりすること。 エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。	ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それら聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合ったり考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。	ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それら聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする。 ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
目標	(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
	(1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。		
や取り扱	ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。
話すこと	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や声の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ 目的や状況に応じて、資料や機材などを効果的に活用して話すこと。	イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
聞くこと	エ 必要に応じて質問しながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。	ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
話し合うこと	オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。	オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かしながら話し合うこと。
	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。		
言語活動例	ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それら聞いて質問や助言をしたりすること。 イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。	ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それら聞いて意見を述べたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、司会や提議者などを立てて討論を行うこと。	ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたこと。 イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。

育成すべき資質・能力の三つの柱（案）

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

言語活動

目標(ねらい)を達成するための手段として位置付ける



言語活動を通して、
目標(ねらい)を達成する

学習指導要領の (2) 言語活動例

(A) 話すこと・聞くこと

	(小) 第1学年及び第2学年	(小) 第3学年及び第4学年	(小) 第5学年及び第6学年
目標	(1) 相手に応じ、身近なことなどについて、事柄の順序を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、話題に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、進んで話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 相手や目的に応じ、調べたことなどについて、原簿を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。	(1) 目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどについて、的確に話す能力、相手の意図をつかみながら聞く能力、計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに、適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。
や取り扱	(1) 話すこと・聞くことの能力を育てるため、次の事項について指導する。 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。	ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。	ア 考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関係付けること。
話すこと	イ 相手に応じて、話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。 ウ 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりした発音で話すこと。	イ 相手や目的に応じて、理由や事柄などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。	イ 目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。 ウ 共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
聞くこと	エ 大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと。	エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。	エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
話し合い	オ 互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。	オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提議などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。	オ 互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。
言語活動例	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア 事物の説明や経験の報告をしたり、それらを聞いて感想を述べたりすること。 イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合ったり考えを一つにまとめること。 ウ 場面に合わせてあいさつをしたり、必要なことについて身近な人と連絡を合ったりすること。 エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。	ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 学級全体で話し合ったり考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。 ウ 図表や絵、写真などから読み取ったことを基に話したり、聞いたりすること。	ア 資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすること。 イ 調べたことやまとめたことについて、討論などをする。 ウ 事物や人物を推薦したり、それを聞いたりすること。

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
目標	(1) 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	(1) 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。
や取り扱	(1) 話すこと・聞くことの能力を育成するため、次の事項について指導する。 ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする。 イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
話すこと	イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や調の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。	イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。 ウ 目的や状況に応じて、資料や機能などを効果的に活用して話すこと。	イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。
聞くこと	エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。	エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。	ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。
話し合い	オ 話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。	オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。	エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かすこと。
言語活動例	(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。 ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。 イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。	ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、司会や提議者などを立てて討論を行うこと。	ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合ったりすること。

言語活動の充実に 関する指導事例集

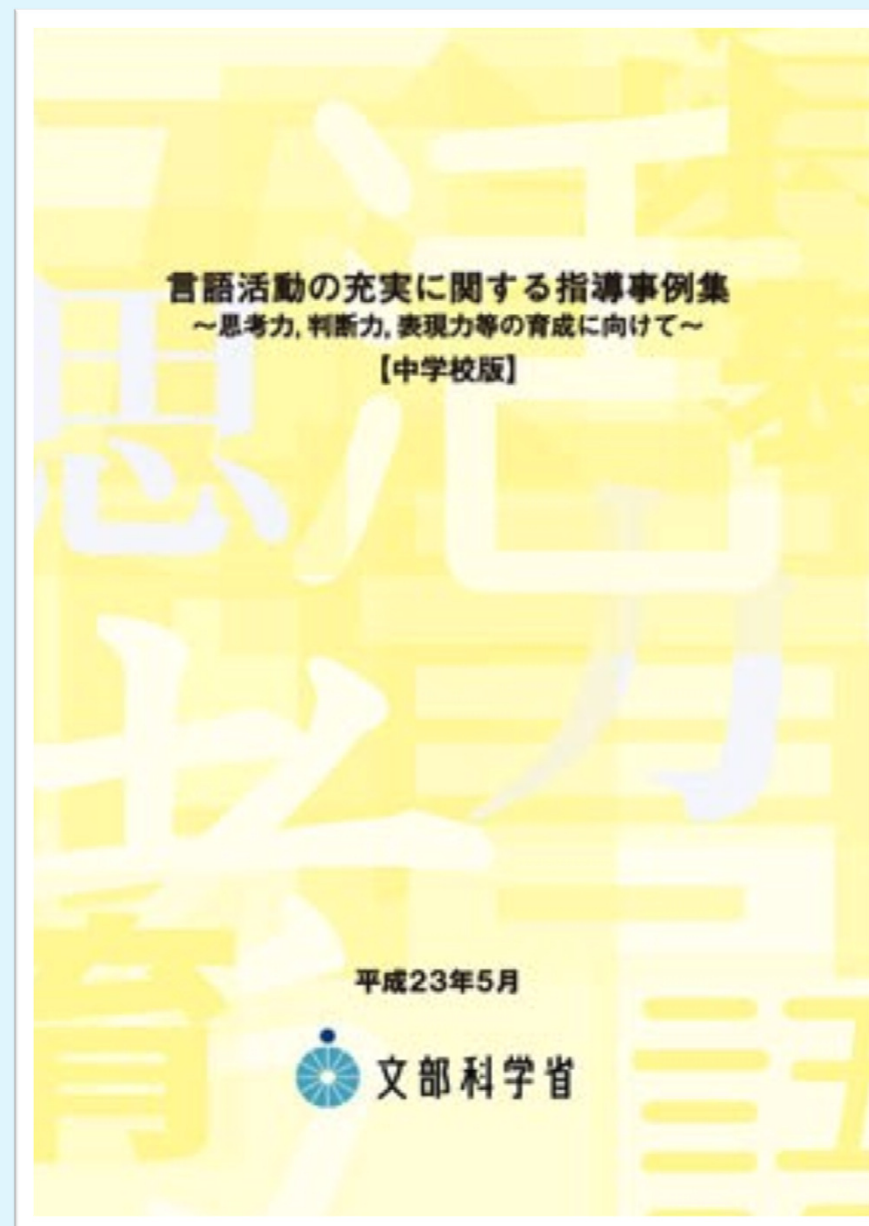
～思考力、判断力、表現
力等の育成に向けて～

【中学校版】

文部科学省

Webアドレス

[http://www.mext.go.jp/a_menu/s
hotou/new-cs/gengo/1306108.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/s
hotou/new-cs/gengo/1306108.htm)



国語

TYPE II
A7二

「問合せのメールに回答する」

事実や意見が相手に効果的に伝わるように工夫して書く

要望に対する回答など、伝達する文章を書く際に、伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように工夫して書くことに課題が見られました。そこで、本アイデアでは、職場体験に関する問合せのメールに対して回答するメールの文章を書く学習を提案します。相手の要望を的確に捉え、相手や目的に応じて内容や構成を工夫し、必要な情報を過不足なく書くことを狙いとします。

課題の見られた問題の概要と結果

A7 委員会に寄せられた要望に対する回答を書く

A7二 正答率 **67.0%** 要望を適切に捉え、回答案の冒頭に一文を加える。

学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕B 書くこと ウ

授業アイデア例



教師

職場体験で訪問する老人福祉施設から次のような問合せのメールが来ました。どのように回答するとよいでしょうか。

- 1 問合せのメールを読み、個人で回答案を作成する。
- 2 ①で作成した回答案を互いに読み合い、適切な回答になっているかどうかを検討する。

【問合せのメール】

宛先: daiichi@xx.ed.jp

件名: 職場体験についてのお伺い

こんにちは。〇〇デイケアセンターの□□です。皆様方の御訪問を、職員一同、楽しみにしております。さて、昨日のメールで、施設利用者の方々と一緒に「おほろ月夜」を歌いたいという御提案をいただきました。是非お願いします。つきましては、こちらで事前に用意しておくものがあれば教えてください。また、歌にかかる時間は、準備などを含めてどのくらいか教えてください。



適切な回答になっているかどうかを、「問合せに過不足なく回答できているか」、「伝えたい事柄が明確に伝わる構成になっているか」という二つの観点から考えてみましょう。

【回答案A】

職場体験でお世話になります第一中学校の△△です。用意していただきたいものと歌にかかる時間についてですが、当日は、音楽を流して歌いたいと考えています。歌詞カードはこちらで用意します。時間は10分程度です。それでは、当日はお世話になります。よろしくお願いします。

【回答案B】

お問合せの内容について回答します。
●用意していただきたいもの：音楽を流すCDプレーヤー
●時間：10分程度
当日は、こちらで用意した歌詞カードを配ります。以上です。

【回答案A】では、訪問先で用意していただきたいものがあるかどうか分からないね。「よろしくお願いします。」などと挨拶を書いているのは、丁寧でよいと思うな。



【回答案B】は、問合せの内容に箇条書きで簡潔に回答できているね。これからお世話になる方へのメールだから、挨拶の言葉もあるとよいのではないかな。

平成27年度 中学校 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例

国語 数学 理科

国語	数学	理科
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
10	10	10
11	11	11
12	12	12
13	13	13
14	14	14
15	15	15
16	16	16
17	17	17
18	18	18
19	19	19
20	20	20
21	21	21

平成27年度
国立教育政策研究所教育課程研究センター

平成27年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた 授業アイデア例

Webアドレス
<http://www.nier.go.jp/jugyourei/index.htm>

言語活動が授業にどのように位置付けられているか

5

言語活動についての教員の適切な評価により、学習の質が高まっている

4

言語活動が単元全体に位置付けられており、付けたい力に合っている

3

言語活動が単元全体に位置付けられているが、活動がマニュアル的である

2

言語活動が単元全体に位置付けられているが、付けたい力に合っていない

1

言語活動はされているが、単元全体に位置付けられていない

0

生徒の主体的な言語活動が設定されていない

資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

○ 現行の学習指導要領においては、全ての教科において言語活動を重視し充実を図ってきたところであるが、今後「アクティブ・ラーニング」の三つの視点からの指導の改善・充実を実現していくためには、より一層、言語活動の充実を図り、全ての学習の基盤である言語能力を向上させることが必要不可欠である。

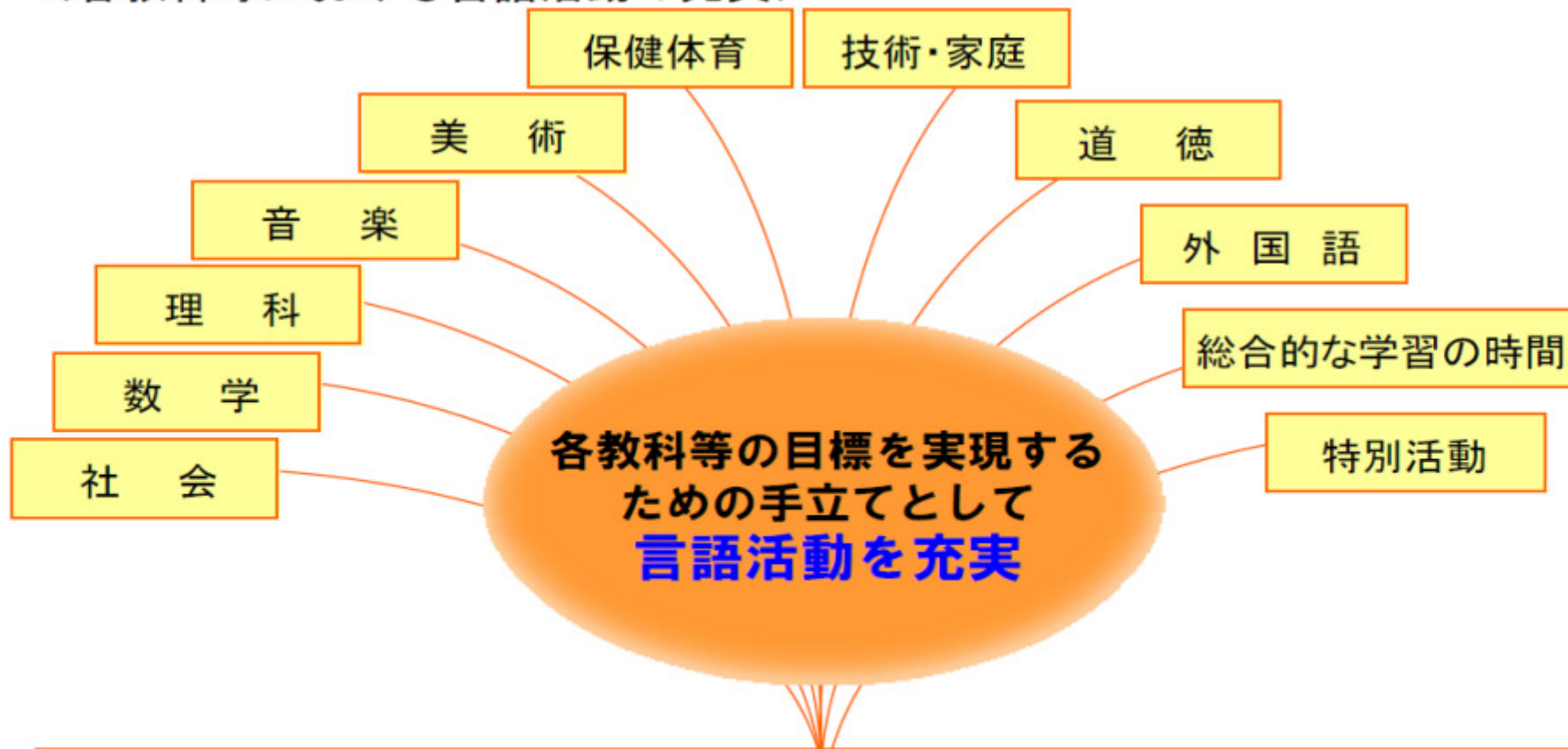
○ このため、国語科が言語能力を育成する中心的役割を担いながら他教科等と連携し、子供たちの言語能力の向上とともに、各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することがカリキュラム・マネジメントの観点からも重要である。

(中央教育審議会教育課程部会

国語ワーキンググループにおける取りまとめ(案)より)

他教科等との連携

＜各教科等における言語活動の充実＞

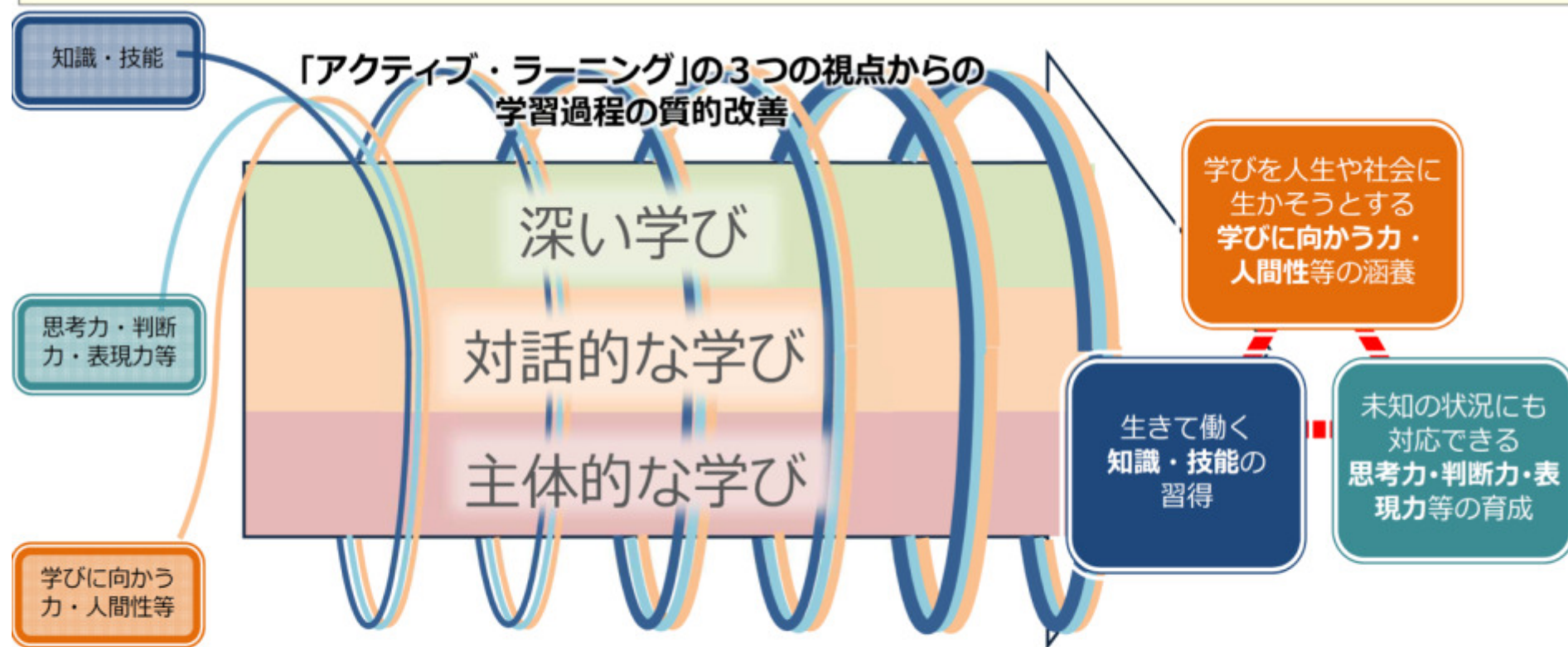


国語科：基本的な国語の力を定着させたり，言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに，発達の段階に応じて，記録，要約，説明，論述といった言語活動を行う能力を培う

資質・能力の育成と

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」の視点）の関係（イメージ）（案）

- ◆ 「アクティブ・ラーニング」の3つの視点を明確化することで、授業や学習の改善に向けた取組を活性化することができる。これにより、知識・技能を生きて働くものとして習得することを含め、育成すべき資質・能力を身につけるために必要な学習過程の質的改善を実現する。
- ◆ 資質・能力は相互に関連しており、例えば、習得・活用・探究のプロセスにおいては、習得された知識・技能が思考・判断・表現において活用されるという一方通行の関係ではなく、思考・判断・表現を経て知識・技能が生きて働くものとして習得されたり、思考・判断・表現の中で知識・技能が更新されたりすることなども含む。



※ 基礎的・基本的な知識・技能の習得に課題が見られる場合においても、「深い学び」の視点から学習内容の深い理解や動機付けにつなげたり、「主体的な学び」の視点から学びへの興味や関心を引き出すことなどが重要である。

アクティブ・ラーニングの三つの視点

- i) 習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につなげる「深い学び」が実現できているか。
- ii) 子供同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- iii) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

国語科における授業づくりの留意点

深い学びの実現のために

- 当該単元において、指導事項を通じて**育成したい国語の資質・能力を明確にする。**
- 当該単元で育成したい国語の資質・能力の育成に適した**言語活動を通して指導する。**
- 生徒自身が**目的や必要性を意識して取り組める学習**となるよう、学習課題を工夫する。

国語科における授業づくりの留意点

対話的な学びの実現のために

- **友達や教員、地域の人との交流**を通じて、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする
- **本の作者などとの交流**を通じて、ものの見方や考え方を広げたり深めたりする


国語科における授業づくりの留意点

主体的な学びの実現のために

- 生徒が学習の**見通しを立てたり**、学習したことを**振り返ったり**する活動を計画的に取り入れる
- 主体的に学習に取り組む態度の**評価を工夫**する

評 価

「目標(めあて)」に準拠した評価

 「活動」に準拠した評価

目標に準拠した評価

2. 単元の目標

- 登場人物の生き方や考え方に興味をもち、命に対する考えを表そうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめることができる。 【読むこと】オ
- 物語を読んで感じたことや考えたことを発表し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。 【読むこと】オ
- 大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語を読み深めることができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】イ(ケ)

5. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・登場人物の生き方や考え方に興味をもち、命に対する考えを「命のエッセイ」に表そうとしている。	・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめている。(エ) ・物語を読んで考えた事や感じた事を発表し合い、エッセイを紹介し合うことを通して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・大事な言葉や表現の工夫などに気付き、物語が強く語りかけてきたことを考えている。(イ(ケ))

生徒



このような姿を表してほしいという
“一本の線”



手立てを講じる



手立てを講じる

4. 読書指導、漢字指導について

読書指導について

平成27年度 全校一斉読書の実施状況（奈良県）

	実施校数	実施率
小学校	192校／全202校	95.0%
中学校	70校／全104校	67.3%
高等学校	27校／全35校	77.1%

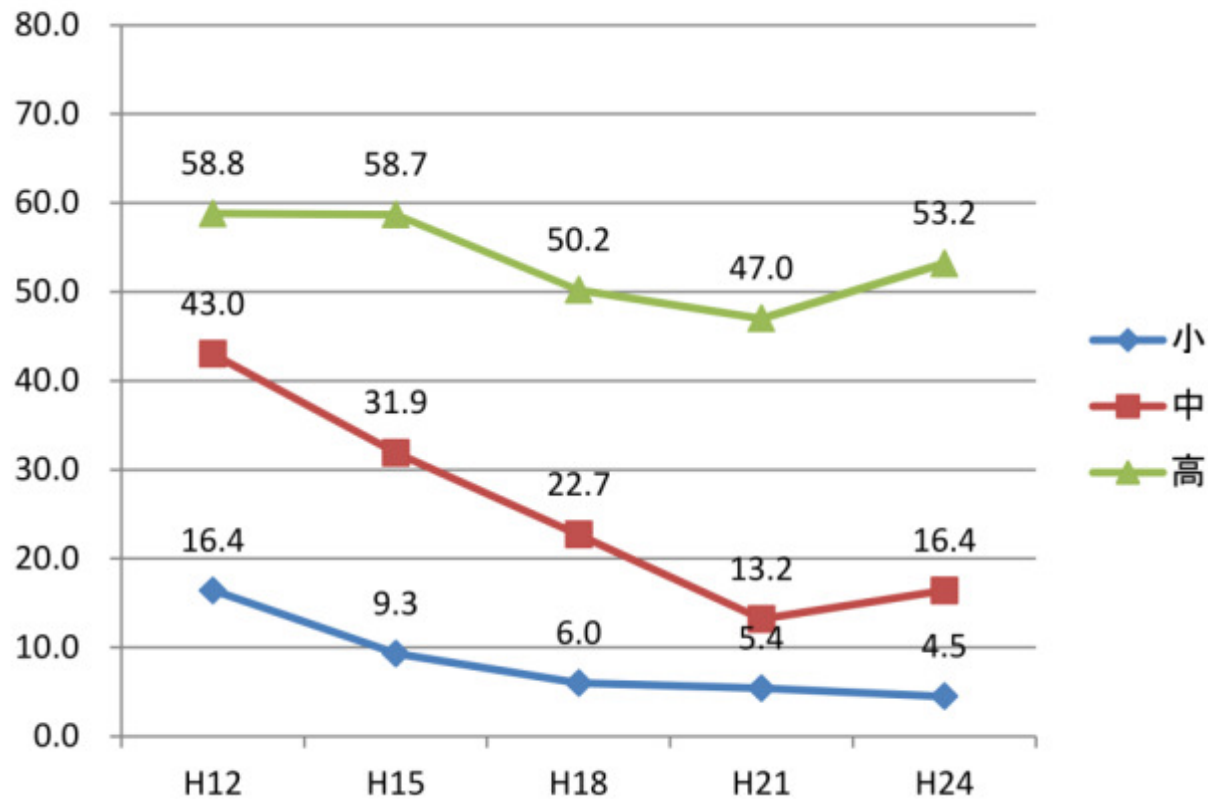
読書指導について

○第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 (平成25年5月 閣議決定)

①不読率(※)の推移(%)

第58回学校読書調査
(全国学校図書館協議会・毎日新聞社)

※ 1ヶ月に1冊も本を読まなかった人の割合



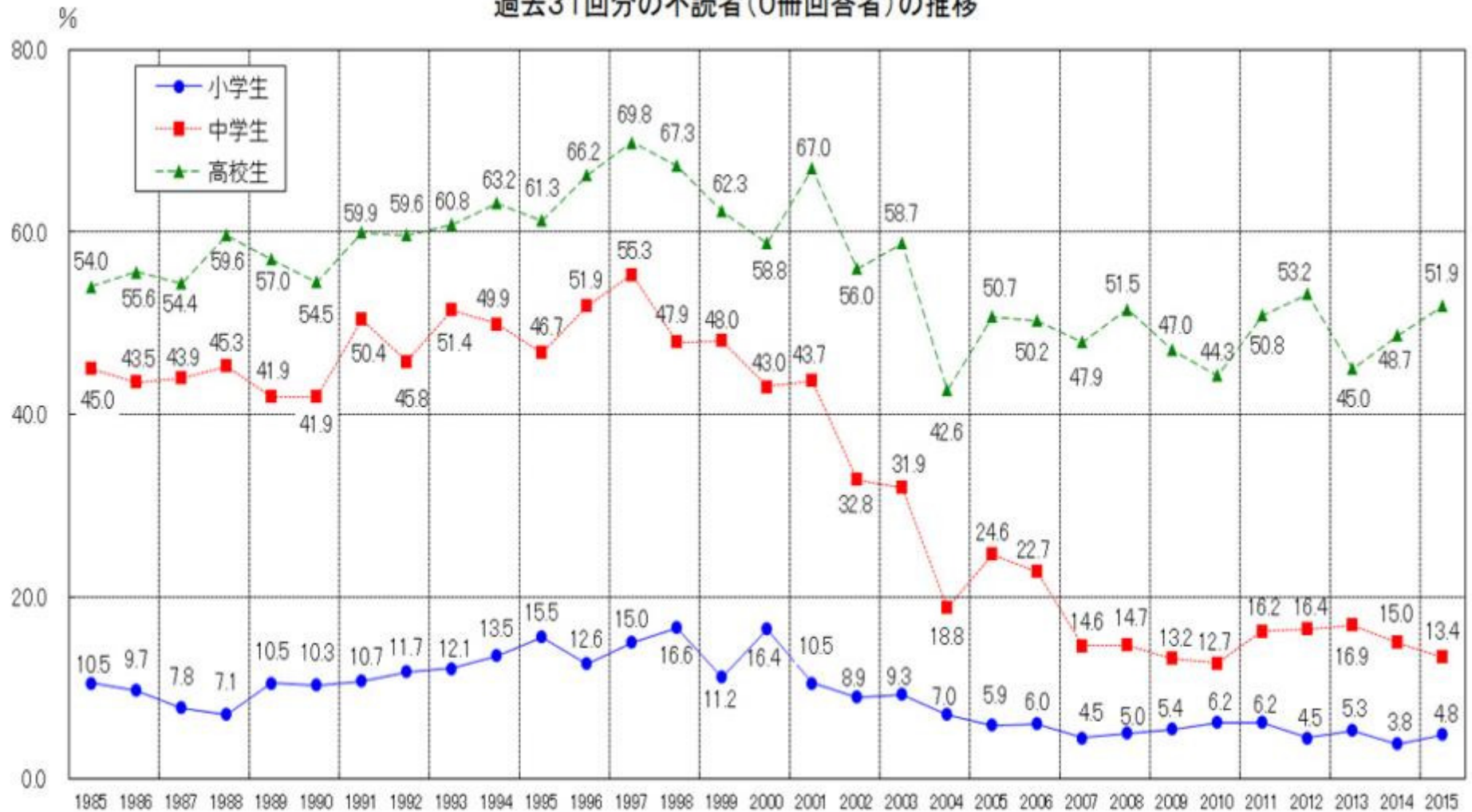
「今後10年間で不読率を半減させること」を目標にする。

おおむね5年後に、
(平成29年)

- ・小学生 = 3%以下
- ・中学生 = 12%以下
- ・高校生 = 40%以下

読書指導について

過去31回分の不読者(0冊回答者)の推移



漢字指導について

中学校における漢字の書きの指導

	(中) 第1学年	(中) 第2学年	(中) 第3学年
ウ 漢字に関する事項	<p>(ア) 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。</p> <p>(イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>(ア) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。</p> <p>(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。</p>	<p>(ア) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。</p> <p>(イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。</p>

「学年別漢字配当表に示されている漢字」

= **小学校1年から6年までに学習する漢字**

漢字指導について

「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」(文化審議会国語分科会)の概要

漢字の字体・字形に関して生じている問題について、常用漢字表(平成22年内閣告示第2号)の「(付)字体についての解説」の内容をより分かりやすく周知し、解決しようとするもの。

現在、社会で生じている問題

手書き文字(筆写ともいう。以下同様。)と印刷文字(情報機器等の画面上に表示される文字を含む。)との違いが理解されにくくなっている。

例)官公庁、金融機関等の窓口で名前などを記入する際に「令」と書くと、明朝体どおりの形(「令」)に書き直すよう指示される。

文字の細部に必要以上の注意が向けられ、本来であれば問題にならない違いによって、漢字の正誤が決められる傾向が生じている。

例)手書きの楷書では、本来、「木」の縦画はとめても、はねてもよいが、一方だけが正しいといった認識が広がっている。

常用漢字表「字体についての解説」で下記のように説明。しかし、図示が中心で、周知も不十分。

令 - 令 令

木 - 木 木

「常用漢字表の字体・字形に関する指針(報告)」(平成28年2月29日 国語分科会)

- 手書き文字と印刷文字の表し方には、習慣の違いがあり、一方だけが正しいのではない。
- 字の細部に違いがあっても、その漢字の骨組みが同じであれば、誤っているとはみなされない。

漢字指導について

「字体」、「字形」等の用語について

字体

文字を文字として成り立たせている骨組みのこと。同じ文字としてみなすことができる無数の字の形それぞれから抜き出せる、形の上での共通した特徴とも言える。書かれた又は印刷された文字が、社会的に通用するかどうかは、その文字にその文字としての字体が認められるかによって決まる。文字の細部に違いがあっても、字体の枠組みから外れていなければ、その文字として認められる。

字形

字体が具現化され、実際に表された一つ一つの字の形のこと。字形は、手書きされた文字の数だけ、印刷文字の種類だけ、存在するとも言える。字体は、様々な字形として具現化する。

字種

同じ読み方、同じ意味で使われる漢字の集まり(グループ)を指す常用漢字表の用語。「桜／櫻」、「学／學」、「竜／龍」、「島／嶋／鳶」などは、それぞれ同じ字種である。

書体

文字に施される、形に関する特徴や様式の体系のこと。印刷文字には、明朝体、ゴシック体、教科書体など、歴史的には、篆書、隷書、草書、行書、楷書などの書体がある。

漢字指導について

○小学校学習指導要領

「漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること」



○小学校学習指導要領解説国語編

「…しかし、この『標準』とは、字体に対する一つの手がかりを示すものであり、これ以外を誤りとするものではない。」

○「学校教育での筆写（手書き字形）の取扱いについて」

（平成22年11月30日 文部科学大臣政務官通知）

・児童生徒が書いた漢字の評価については、指導した字形以外の字形であっても、指導の場面や状況を踏まえつつ、柔軟に評価すること。

常用漢字表の 字体・字形に関する指針(報告)

平成28年2月29日
文化庁文化部国語課

文化庁のWebページからダウンロード
できます。



Webアドレス

http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/2016022902.html

書籍化もされています。 